The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	【定年退職教授の履歴および主要業績】　三宮真智子教授
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 2019, 45, p. 195-199
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/71843
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【定年退職教授の履歴および主要業績】

三　宮　真智子　教授

三宮（さんのみや）　真智子（まちこ）　教授

1978 年 3 月　大阪大学人間科学部人間科学科卒業
1980 年 3 月　大阪大学大学院人間科学研究科修士課程修了
1983 年 3 月　大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位修得退学
1983 年 4 月　日本学術振興会奨励研究員
1984 年 4 月　鳴門教育大学助手
1985 年 12 月　学術博士（大阪大学）
1988 年 4 月　鳴門教育大学講師
1990 年 4 月　鳴門教育大学助教授
1998 年 4 月　鳴門教育大学教授
2009 年 4 月　大阪大学大学院人間科学研究科教授
2019 年 4 月　大阪大学名誉教授（予定）

三宮真智子教授は、1978 年 3 月に大阪大学人間科学部人間科学科を卒業し、1983 年 3 月大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程を単位修得退学、日本学術振興会奨励研究員を経て、1984 年 4 月鳴門教育大学助手に採用された。同大学講師、助教授、教授を経て、2009 年 4 月大阪大学大学院人間科学研究科教授に就任した。大阪大学、人間科学研究科、人間科学部の発展に尽力し、2019 年 3 月 31 日付で定年退職するものである。この 10 年間にわたり、真摯な態度で大阪大学の学生の教育および研究に従事し、多くの後進の育成に携わってきた。

同教授は認知心理学、教育心理学、教育工学に軸足を置き、その主たる研究は、人間の言語情報処理、特に記憶、理解、思考、コミュニケーションに関する実験研究および教育開発研究である。博士論文のテーマとなった文章処理におけるモダリティー効果の研究は、国際学会においても高い評価を受け、『Advances in Psychology, Vol.8 Discourse Processing』（1982, Flammer & Kintsch (Eds.)）に掲載された。他にも、人間の言語情報処理に関する数多くの実験研究は、国内外の学術論文誌に掲載されるとともに、科学研究費補助金等、外部資金の援助を多数獲得する結果に繋がっている。

こうした実験研究に加えて、特筆すべきは、教育開発研究である。前任校の鳴門教育大学において、教師教育（教員養成教育および現職教育）のためのコミュニケーション力を高める授業設計に取り組み、コース開発や教材開発に注力してきた。教職大学院に特化したコミュニケーション教育カリキュラムの設計も行い、成果を上げている。こうしたコミュニケーション力育成プログラムの開発・改善は、その対象とする範囲を広げ、大阪大学着任後も継続している。

コミュニケーション力の育成とともに、思考力、とりわけ創造的思考力の育成においても成

果を上げている。和歌山大学教育学部附属中学校と連携し、生徒の創造的思考力を高めるトレーニングの開発研究はすでに6年目を迎え、全学年を見通したカリキュラムへと発展してきている。トレーニングの成果をまとめた論文も、欧文誌に掲載されている。この研究も科学研究費補助金の援助を受け、独自に開発したテキスト『考え方学習 2.0：メタ認知を使って創造的に考える方法』（450 冊）を同校に寄贈することができた。このテキストは現在も活用されている。

こうしたコミュニケーション力、思考力の育成において根幹を成すものは「メタ認知」（認知に対する認知）であり、学校教育においてもメタ認知能力の育成を重視する必要があるとの考えから、近年は、小学校、中学校、高等学校の教師や教育関係者をも対象としたメタ認知についての図書を出版しており、大きな反響を呼んでいる。

また、学会活動としては、日本教育心理学会城戸奨励賞選考委員、日本教育心理学会論文誌常任編集委員、日本教育心理学会研究委員、日本教育心理学会教育心理学年報編集委員、日本教育工学会評議員、日本教育工学会理事、日本心理学会論文誌常任編集委員、心理学ワールド（日本心理学会発行）編集委員等を歴任した。現在も、日本教育工学会評議員、日本心理学会国際賞選考委員会委員および同学会教育研究委員会委員を務めている。

社会的活動としては、松下視聴覚教育研究財団（現パナソニック教育財団）研究開発助成審査委員、同財団研究賞判定委員、同財団評議員、同財団実践研究助成審査委員、日本学術振興会科学研究費委員会専門委員、日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員、文部科学省科学技術・学術審議会専門委員、文部科学省「初等中等教育における教育の情報化に関する検討会」委員、大学設置・学校法人審議会の専門委員等を歴任し、現在も日本学術会議連携会員を務めている。

大阪大学内では、学内図書委員会、部局安全衛生委員会、動物実験委員会、心理教育相談室運営委員会などの委員を長年務めた。

以上のように、三宮教授は大阪大学および大阪大学院人間科学研究科・人間科学部における教育、研究、運営を通じて、その充実と発展に寄与するとともに、認知心理学、教育心理学、教育工学などの広い領域に関わる研究により学術振興に尽力し、なおかつ社会的にも貢献してきた。

主　要　業　績

著書

1. 三宮真智子 2002『考える心のしくみ：カナリア学園の物語』北大路書房（単著）
2. 三宮真智子 2008『メタ認知：学習力を支える高次認知機能』北大路書房（編著）
3. 三宮真智子 2010『教育心理学』学文社（編著）

4. 三宮真智子 2017『誤解の心理学：コミュニケーションのメタ認知』ナカニシヤ出版（単著）
5. 三宮真智子 2018『メタ認知で<学ぶ力>を高める：認知心理学が解き明かす効果的学習法』北大路書房（単著）

他 24 冊

学術論文

1. Machiko Sannomiya 1982 The effect of presentation modality on text memory as a function of difficulty level. *The Japanese Journal of Psychonomic Science*, 1(2), pp.85-90
2. Machiko Sannomiya 1984 Modality effect on text processing as a function of ability to comprehend. *Perceptual and Motor Skills*, 58,pp.379-382
3. Machiko Sannomiya 1984 The modality effect on text processing as a function of presentation rate. *The Japanese Journal of Psychonomic Science*, 3(1), pp.17-20
4. Machiko Sannomiya 1985 The effect of suppressing subvocal speech on text processing during auditory and visual presentation. *Japanese Psychological Research*, 27(1), pp.41-44
5. Machiko Sannomiya 1989 Some factors about an information-sending device which senders feel is inconvenient. *Perceptual and Motor Skills*, 69, pp.591-594
6. Machiko Sannomiya 1990 Which factors in verbal communication make information-senders irritated? *The Japanese Journal of Psychonomic Science*, 9(1), pp.51-53
7. Machiko Sannomiya and Atsuo Kawaguchi 1999 Cognitive characteristics of face-to-face and computer-mediated communication in group discussion: An examination from three dimensions. *Educational Technology Research*, 22, pp.19-25
8. Machiko Sannomiya and Atsuo Kawaguchi 2000 A case study on support for students' thinking through computer-mediated communication. *Psychological Reports*, 87, pp.295-303
9. Machiko Sannomiya, Atsuo Kawaguchi, Ikue Yamakawa, and Yusuke Morita 2003 Effect of backchannel utterances on facilitating idea-generation in Japanese think-aloud tasks. *Psychological Reports*, 93, pp.41-46
10. Machiko Sannomiya and Kazuhiro Ohtani 2015 Does a dual-task selectively inhibit the metacognitive activities in text revision? *Thinking Skills and Creativity* 17, pp.25-32
11. Machiko Sannomiya and Yosuke Yamaguchi 2016 Creativity training in causal inference using the idea post-exposure paradigm: Effects on idea generation in junior high school students. *Thinking Skills and Creativity* 22, pp.152-158

他 82 報